

硬式野球 4年ぶり 全日本大会へ

春季リーグ

2季連続6度目V

優勝決定戦で福井工大下す

北陸大学野球春季リーグは四月七日から七週間にわたって熱戦が展開され、金沢学院大学チームは福井工大とのプレーオフ（優勝決定戦）に勝って、秋春連続で六度目の優勝を果たしました。六月十二日から東京の神宮球場などを会場に開かれる全日本大学野球選手権に四年ぶり二度目の出場を決めました。

プレーオフで福井工大を下し、喜ぶナイン
〓 5月26日、加賀市中央公園野球場



<リーグ戦成績> 10勝3敗

4月7日	4	3	高岡法科大
4月8日	2	1	高岡法科大
4月21日	3	2	金沢星稜大
4月23日	8	3	金沢星稜大
4月28日	3	2	北陸大
4月29日	6	2	北陸大

5月12日	2	4	富山国際大
5月13日	6	1	富山国際大
5月14日	6	3	富山国際大
5月19日	6	3	福井工大
5月21日	1	5	福井工大
5月22日	0	3	福井工大
優勝決定戦			
5月26日	2	1	福井工大

金沢学院大は、高岡法科大、金沢星稜大、北陸大、富山国際大を破り勝ち点4でいったん首位に立ちましたが、最終の福井工大戦は初戦勝利のあと連敗し、勝

ち点4、9勝3敗で並ばれ、優勝決定戦に臨みました。決定戦では三回に1点先行したものの、九回表に追いつかれました。しかし、九回裏に強風による幸運なライト線二塁打のあと、送りバントで送球ミスを誘いサヨナラ勝ちしました。角尾貴宏監督は「けがを

一つの特技で生きられる時代

大学開学20周年 大武氏が記念講演

豊富な話題を盛り込んで講演する大武氏。4号館講堂



金沢学院大学開学二十周年記念講演会は五月十八日、4号館講堂で行われ、商工組合中央金庫副理事長で元国税庁長官の大武健一郎氏が「未来への提言」と題して講演しました。大武氏は「これからは、オールラウンドでなく、一つの特技で生きられる時代が間違いない」と述べ、聴講した経営情報学部学生らにアドバイスしました。

大武氏は、人口増加、人口大移動、有利な為替レートで経済が拡大した二十世紀後半の日本を解説しました。その上で、優れた感性を持ち、複式簿記の普及など先人の優れた蓄積がある日本人の特性に触れて、「これから超高齢化社会を迎える日本は質で勝負する国になる」と強調しました。

したレギュラーが多かったが、その分、結束が固まった。苦しくても最後まであきらめなかったことが優勝に結びついた。全日本大会では、雰囲気にもまれることなく、今度こそ1勝を挙げたい」と話しています。

理事長に優勝報告

学院大野球部ナインは五月二十八日、北國新聞社を訪ねて、飛田秀一社長（学校法人金沢学院理事長）に優勝と全日本大会出場を報告し、激励を受けました。



石田寛人学長は「生徒の進学にあたっては、まずその分野が好きであることが大切」と話しました。学科の代表が、近年の入学状況や学生の特徴などを説明しました。



真は左から山上、西川、中西さん）
結果、西川亨が優勝しました。二位は山上慈明法務部職員、三位は中西勤総務課長でした。（写真）